Press Release

別紙資料

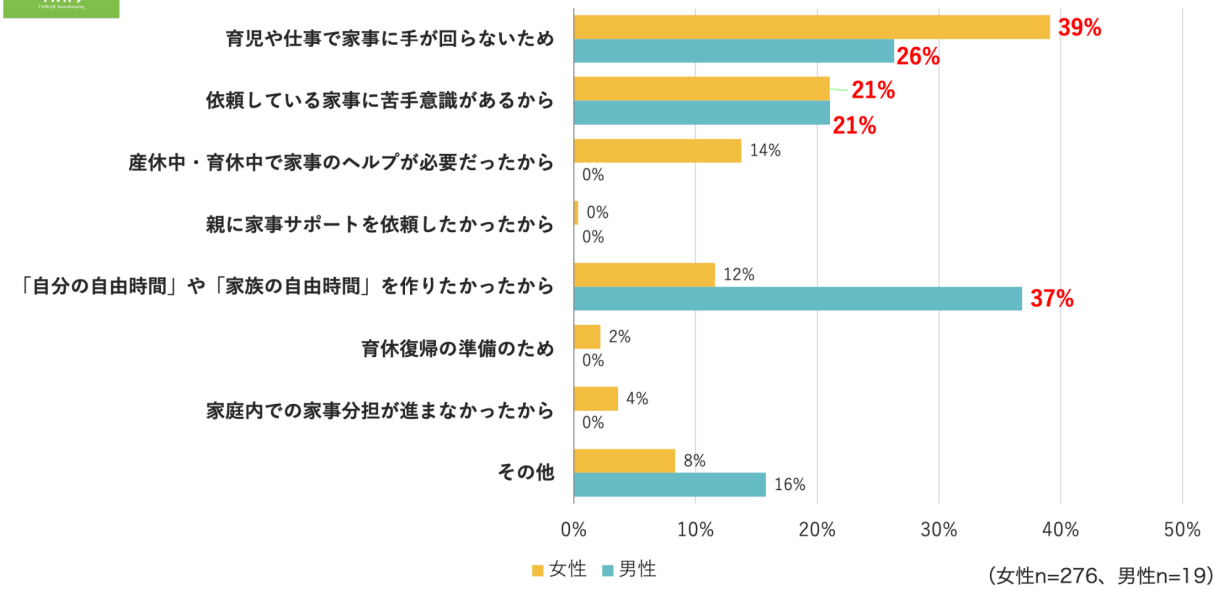
■ 「家庭内(ジェンダー間)の家事ギャップと家事代行利用の実態調査」アンケート結果詳細

（1）家事代行の導入に対する男女間のギャップについて

＊対象：男性依頼者ユーザー、女性依頼者ユーザー
＊30-50 代の夫婦のみ世帯やファミリー層（*以下ファミリー層）
＊ 男性依頼者ユーザーはサンプル数が少ないため参考値

（1－1）家事代行の利用を始めたきっかけ

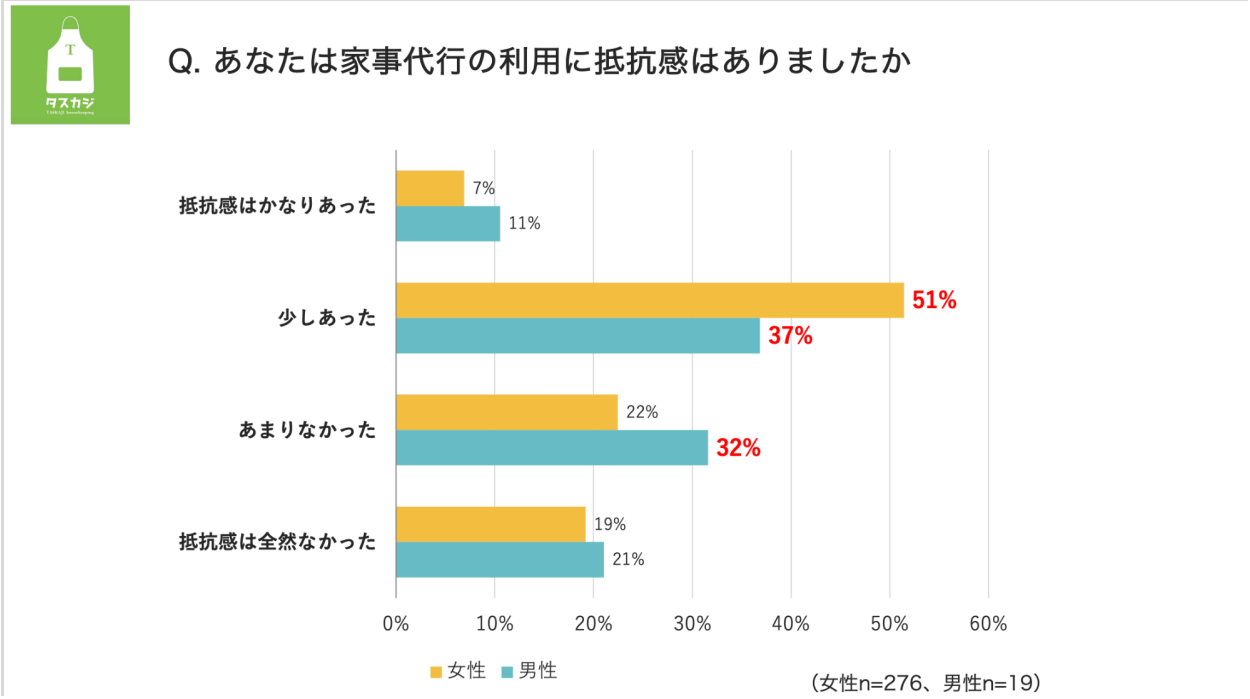
Q.家事代行の利用を始めたきっかけを教えてください。



（女性n=276、男性n=19）

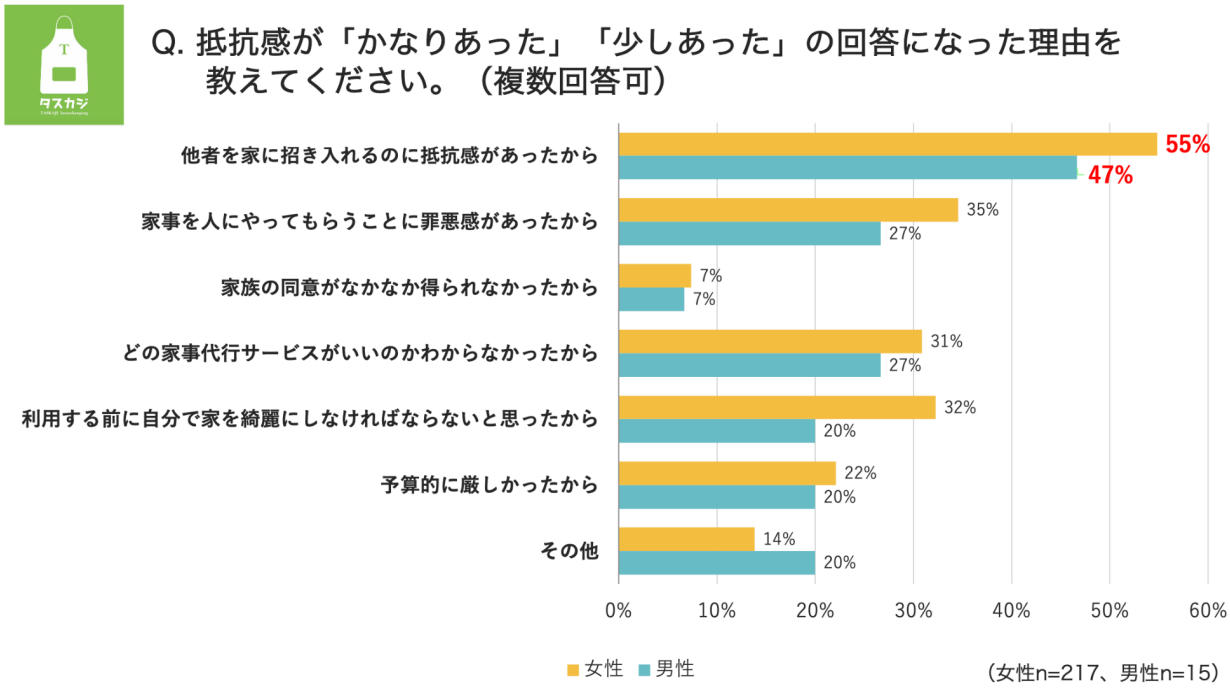
ファミリー層の女性は「育児や仕事で手が回らない」のきっかけが一番多く 39%、一方でファミリー層の男性は「自分の自由時間や家族の自由時間を作りたい」というきっかけが多く 37%だった。

（1－2）家事代行の導入に対する抵抗感の有無



男性は女性に比べ、家事代行への抵抗感の低い人が多かった。（抵抗感がない割合は、女性：男性＝41%：53%）

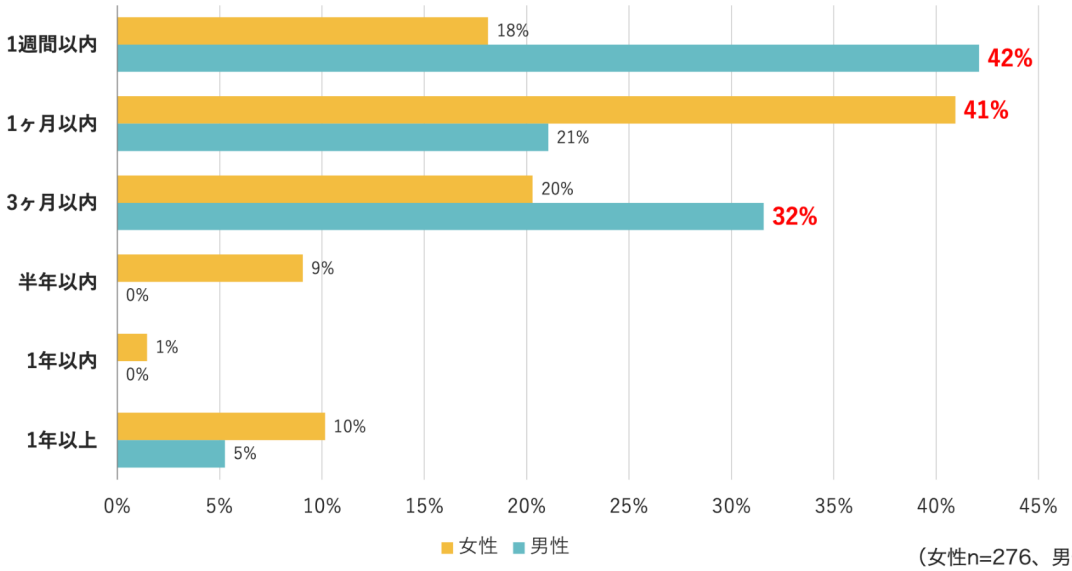
（1－3）家事代行の導入に対する抵抗感の理由



男性、女性ともに「他者を家に招き入れる」ことへの抵抗感が第 1 位だった。全般的に女性の方が抵抗感が強い。

（1－4）家事代行導入までの期間

Q.家事代行の利用検討開始から実際に利用するまでにかかった期間は、おおよそどのくらいでしたか？

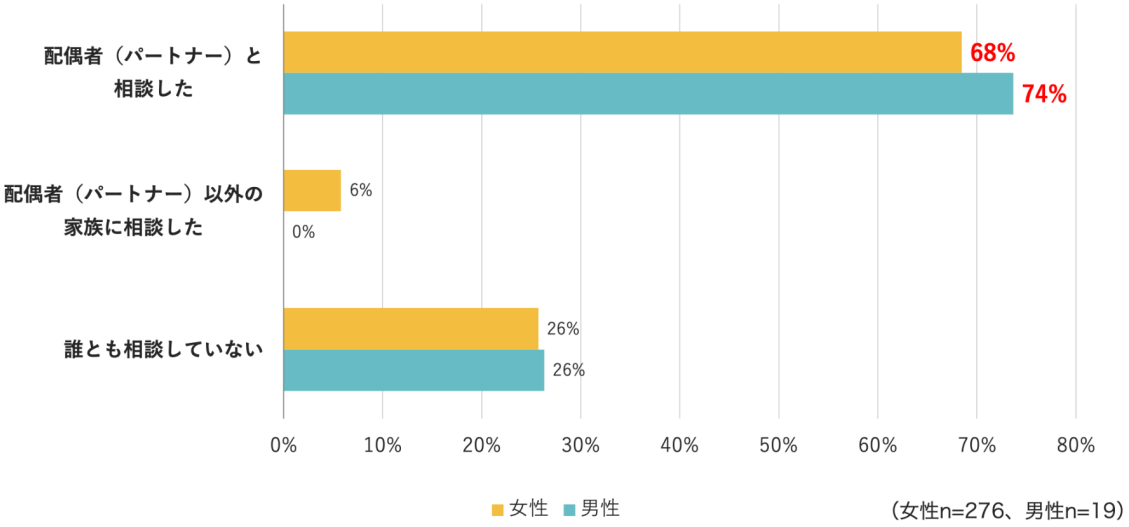


（女性n=276、男性n=19）

家事代行について、検討から実際利用するまでにかかった期間は、男女ともに半数以上が１ヶ月以内だった。

（1－5）家事代行利用に関して、家族内での相談の有無

Q. 家事代行の利用検討にあたり、配偶者（パートナー）や家族と相談しましたか？

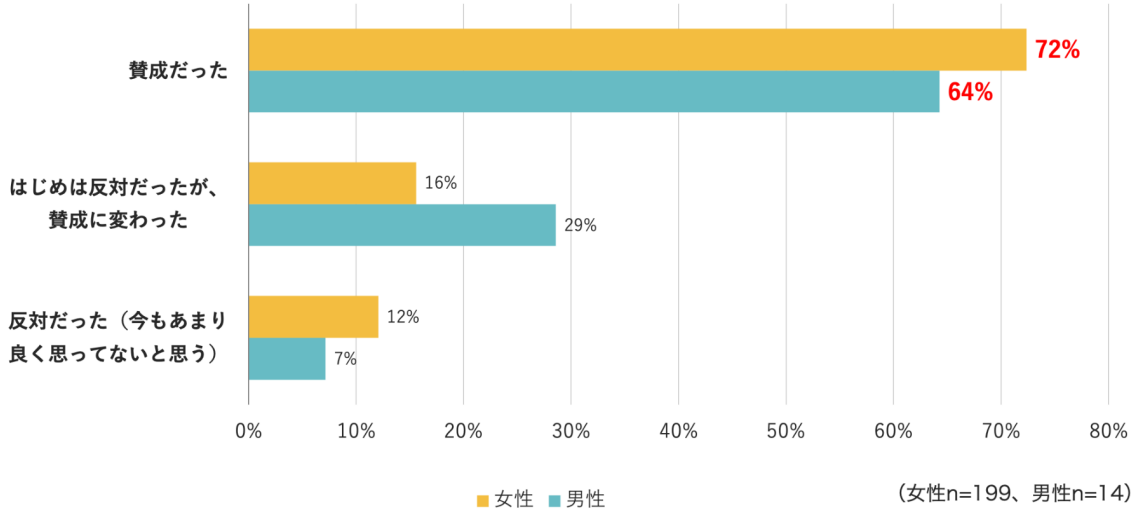


（女性n=276、男性n=19）

ファミリー層では、女性よりも男性の方が事前にパートナーと相談する人が多かった。

（1－6）家事代行利用に関して、パートナーの反応

Q.「配偶者（パートナー）と相談した」という方にお聞きします。
家事代行の導入に関するパートナーの反応（賛成or反対）を
教えてください。

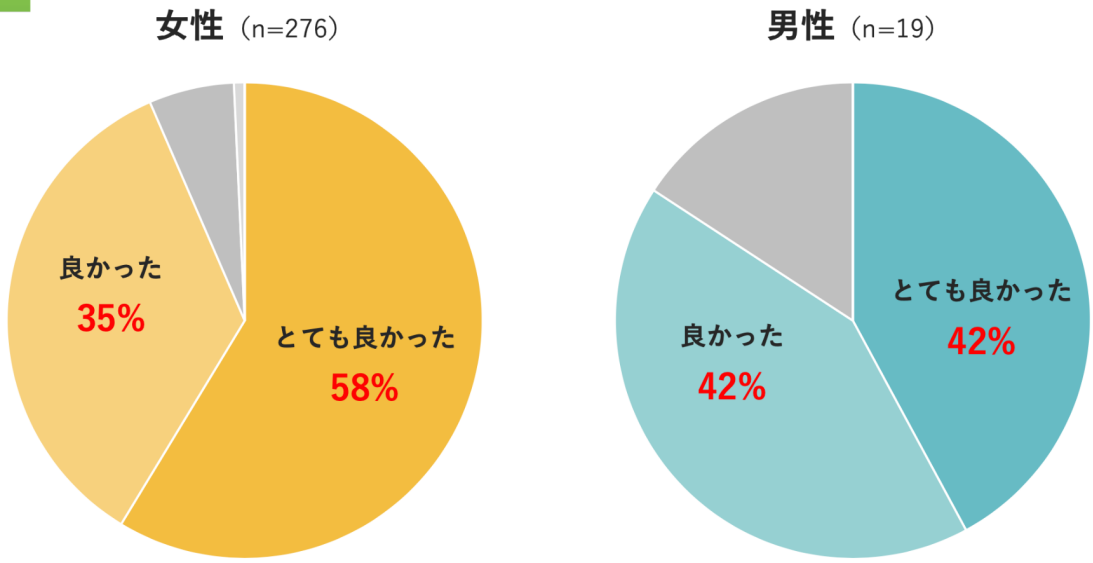


（女性n=199、男性n=14）

女性依頼者ユーザーの 7 割がパートナー（男性）の賛成を得ている。女性ユーザーに比べて男性依頼者ユーザーの場合は、パートナー（女性）が最初から賛成した割合はやや少なめだった。

（1－7）家事代行利用導入後の感想

Q. 家事代行を利用し始めて良かったと思いますか



ファミリー層の約 9 割は家事代行利用に満足していると回答。

＊理由（フリー回答抜粋）
・時間と体力に余裕ができた
・家事のストレスが減った

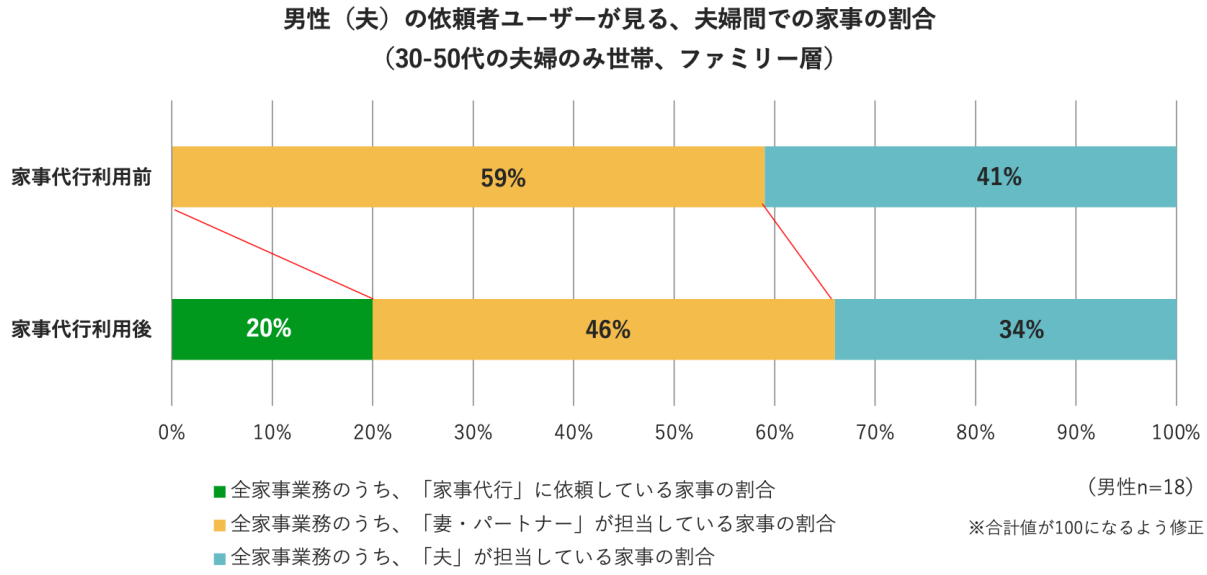
・家事の呪縛から開放された
・心身共に負担が軽減された
・やらなければならないことの１つがなくなり、子供との時間が増えた
・まだ産後まもなく、家事をしてもらっている間に休息できる
・苦手なことは得意な方へお願いすることが、効率が良いということが分かった。
・家族や子供と過ごす時間が増えた
・生活が快適になった
・家がきれいになった
など

（２）家庭内での家事分担について

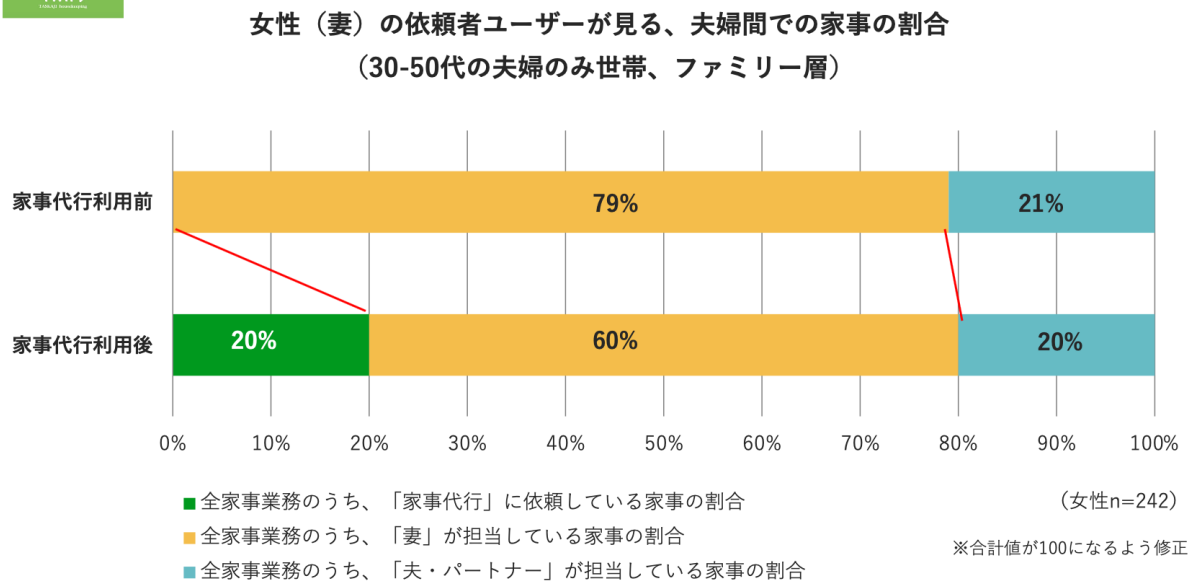
＊対象：配偶者（パートナー）と同居する男性依頼者ユーザー・女性依頼者ユーザー
＊30-50 代の夫婦のみ世帯やファミリー層（*以下ファミリー層）
＊ 男性依頼者ユーザーはサンプル数が少ないため参考値

（２－１）男女間で見る家事比較（家事代行利用前後）

Q. 家事代行の利用前後を比較して、男女間で見る家事比率



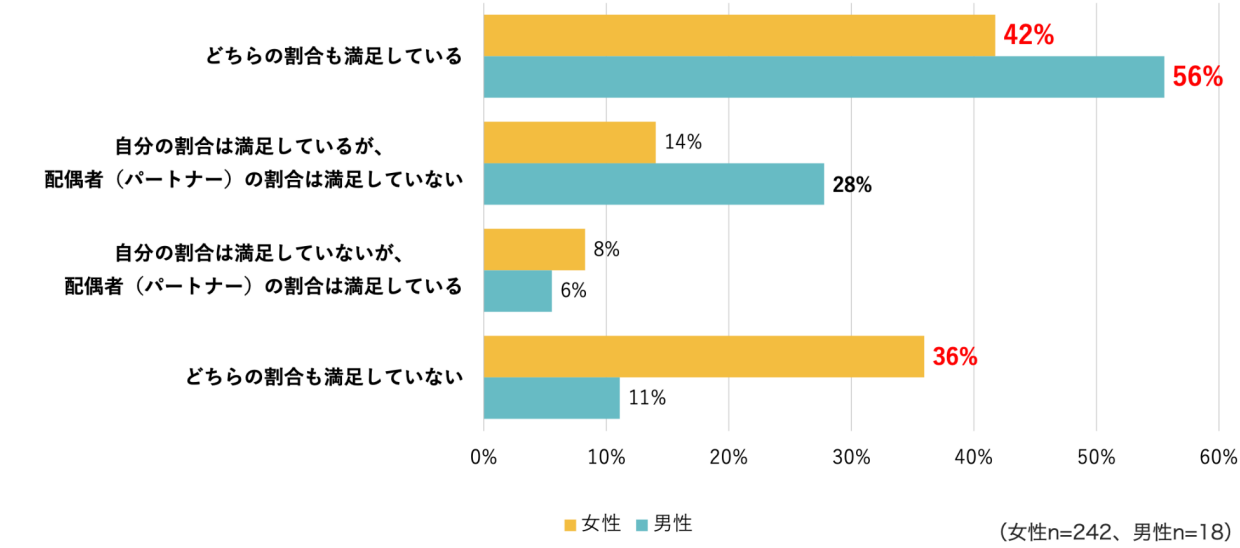
Q. 家事代行の利用前後を比較して、男女間で見る家事比率



ファミリー層の男性依頼者ユーザー世帯では家事を夫と妻でほぼ折半している一方、女性依頼者ユーザーの場合では、家事代行利用前には女性の家事負担は 8 割と家事ギャップが大きいことがわかった。家事代行の利用により、女性の家事負担は 6 割まで低下するも、夫の家事負担は 2 割と依然家事ギャップは大きく残っている。

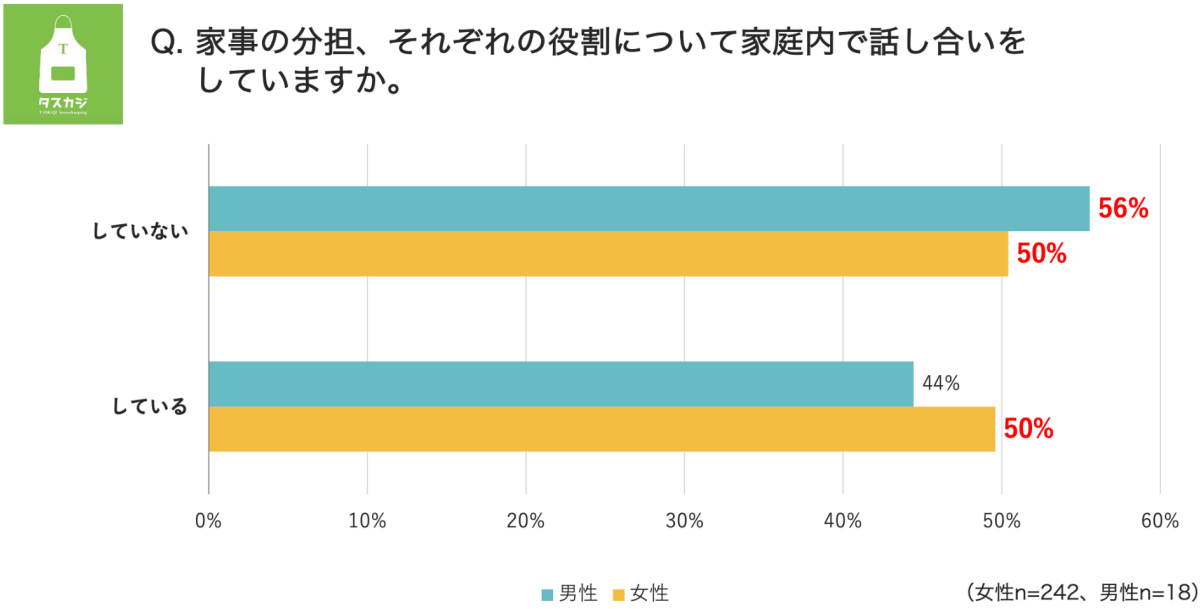
（2－2）夫婦間の家事比率に対する満足度

Q. あなたと配偶者（パートナー）両方の現在担当している
家事分担の割合に対して、満足していますか？



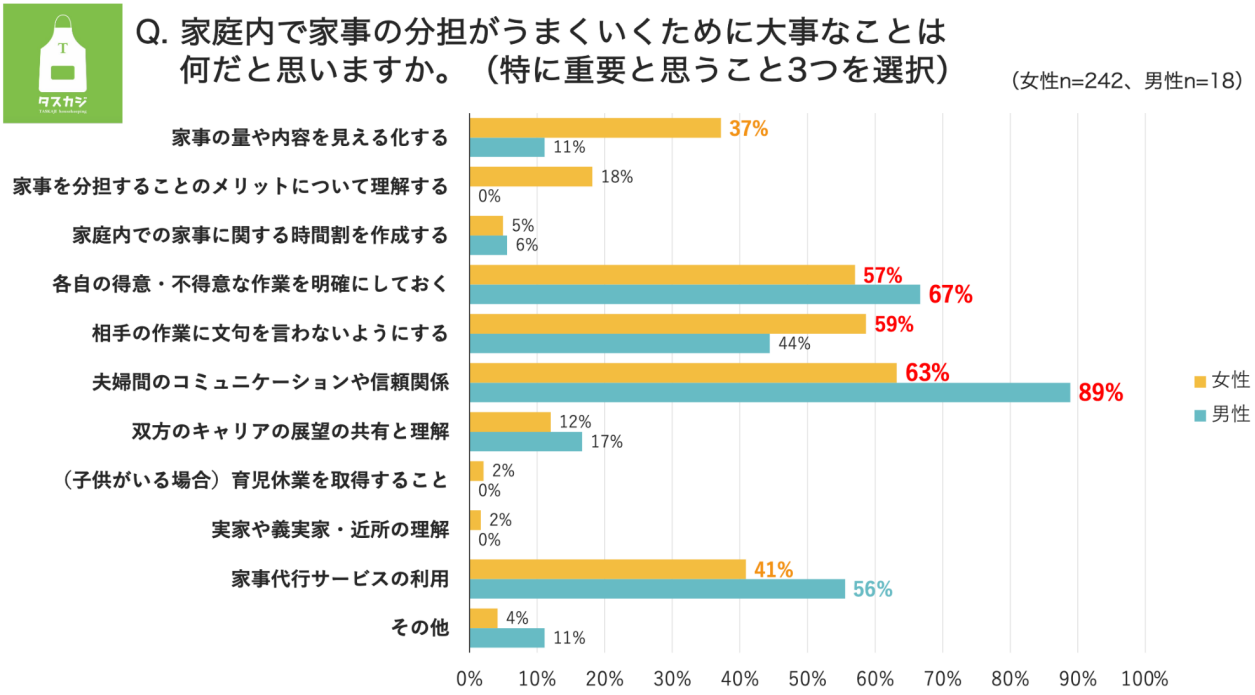
「どちらの割合も満足している」のは、女性依頼者よりも男性依頼者の方が多かった。また、「どちらの割合も満足していない」は、男性と女性の割合で開きがあった。

（2－3）家庭内の家事分担について



女性依頼者ユーザーの方が、家庭内で役割について話し合っている人が多かった。

（2－4）家庭内の家事分担について、必要だと思うこと



家事分担には、男性 89%・女性 63%と男女ともに「夫婦間のコミュニケーションや信頼関係」が一番重要だと考えていることがわかった。また、女性は「相手の作業に文句を言わない」「家事の量や内容を見える化」することをより重視している。
男性は女性以上に「家事代行サービスの利用」が有効だと考える傾向がある。

＊その他の意見（フリー回答抜粋）
・本人の価値観、家事は自分以外の他の人がするという考えを捨てられること
・家事を「手伝う」という意識を持たず、主観的にやる気持ち

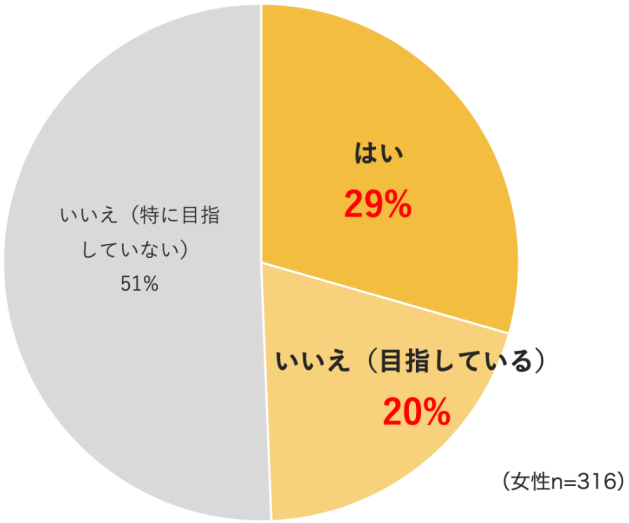
・自動化できるものは自動化する
など、家事分担をするために大事なこととして、家事に対する意識面についての回答もあった。

（3）女性のキャリアアップの意識と家事代行の関係性について

＊対象：女性依頼者ユーザー

（3－1）女性依頼者ユーザーでリーダー職についている（目指している）割合

Q.あなたは、現在仕事でリーダー的な地位にありますか。

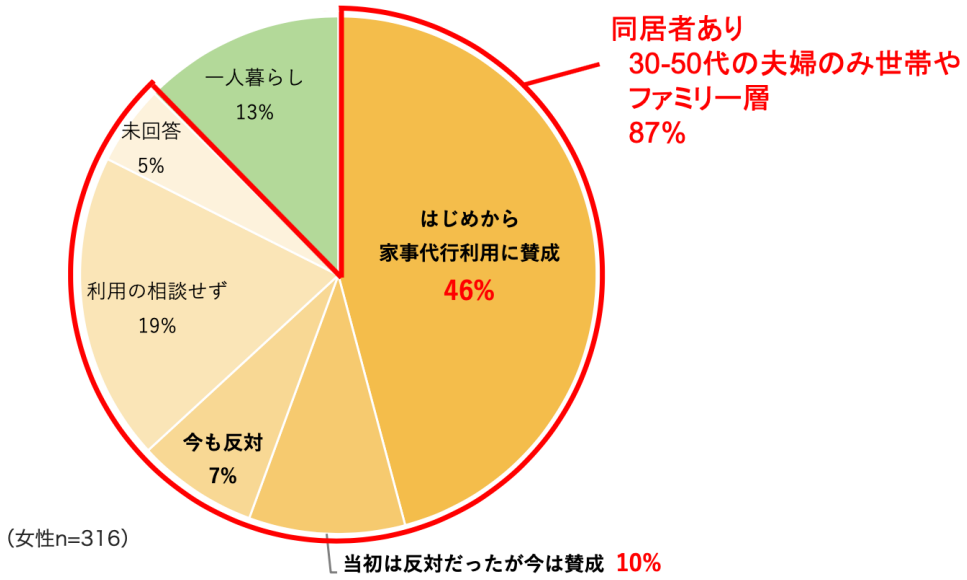


※「リーダー的な地位」とは、「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも 30％程度になるよう期待する」という政府目標（いわゆる『2020 年 30％』の目標）における「指導的地位」の定義を基に、ここでは次の①～④に該当する方を表します。①議会議員、②法人・団体等における課長相当職以上の方、③専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する方（代表例として、大学において 6 年間の専門教育を必要とする医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、及びこれに準ずるものとして弁護士、会計士、研究者、記者など）、④起業準備中の方（＊フリーランスは含みません）

女性の依頼者ユーザーのうち約半数が現在リーダー層あるいはリーダー層を目指していると回答。

（3－2）女性依頼者ユーザーの内訳（家事代行利用に対する男性パートナーの反応別）

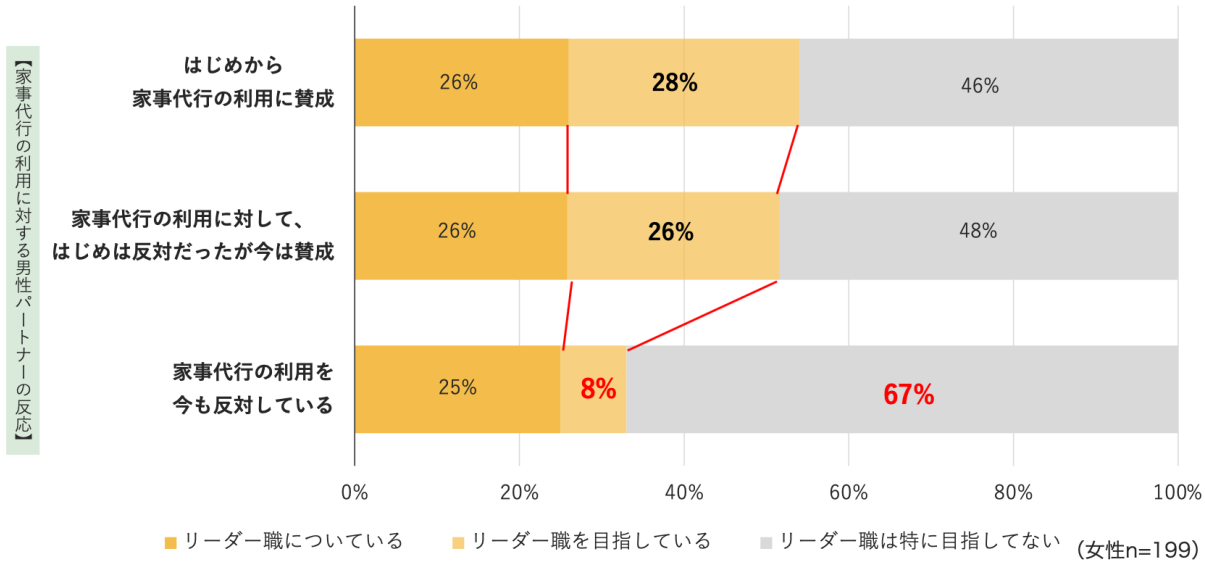
Q. 家事代行利用に対する男性パートナーの反応別に見る
女性依頼者ユーザーの内訳



女性依頼者ユーザーのうち、パートナーも家事代行利用を賛成している割合が最も多く 46%。続いて多いのは利用の相談をしていない人で 19%、今でもパートナーから家事代行利用を反対されている人は 7%いました。

（3－3）女性がリーダー職で仕事をする（目指す）ことに対して、男性パートナーの家事代行利用に対する反応の関係性

Q. 「現在仕事でリーダー的な地位にあるか」の質問に対する
女性のキャリアアップの意識と、
家事代行利用に対する男性パートナーの反応の関係性

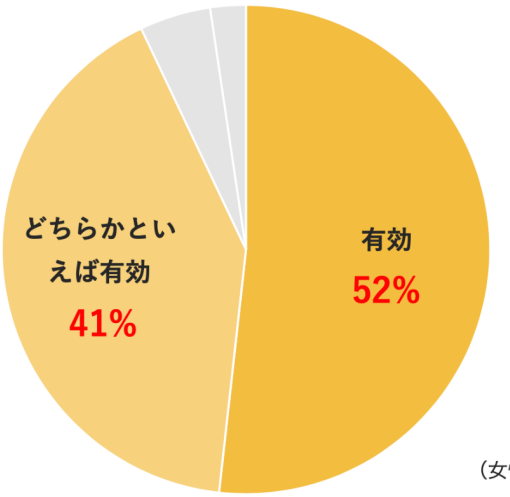


家事代行の利用を男性パートナーから反対されている女性依頼者ユーザーは、リーダー層あるいはリーダー層を目指している人は「家事代行利用を賛成」している人と比べて 33%と少なく、特に今後リーダー層を目指している人はわずか 8%に留まっている。

（3 −4）女性がリーダー職で仕事をする（目指す）ことに対して、家事代行の有効性

Q. 家事代行を利用することが、現在リーダー的な地位で仕事をする上で、有効であると思いますか。

※対象：家事代行を利用していて、リーダー職をしている（目指している）女性依頼者ユーザー



（女性n=85）

現在リーダー層あるいはリーダー層を目指していると回答した女性依頼者ユーザーの 9 割以上が、家事代行利用は女性のキャリア形成に有効と回答。

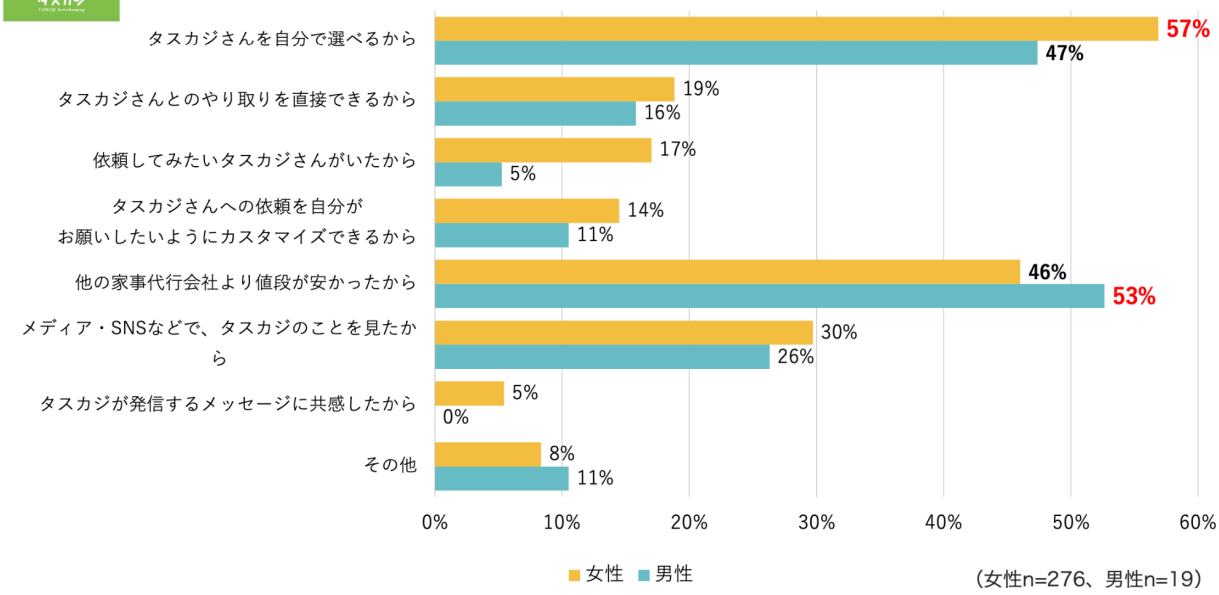
＊理由（フリー回答から抜粋）

・時間を有効的に使える
・精神的な余裕が生まれる
・体力的負担を減らせるから
・苦手な作業はお願いして仕事に集中できるから
・仕事に集中できる環境と時間を整えられるため
・余裕が出来た時間を勉強などにあてられる
・仕事へ割ける時間の増加
・家事する時間を削減でき、他のことに集中できるため
など

（4）タスカジの導入の理由・利用中の過ごし方について

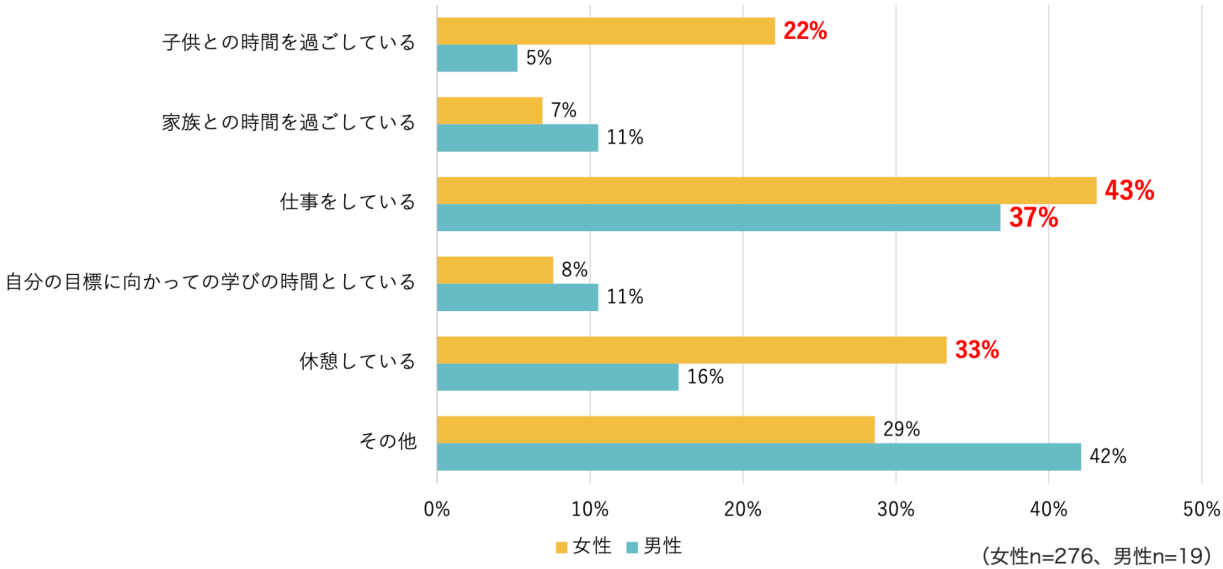
＊対象：男性依頼者ユーザー、女性依頼者ユーザー
＊30-50 代の夫婦のみ世帯やファミリー層（*以下ファミリー層）
＊ 男性依頼者ユーザーはサンプル数が少ないため参考値

Q. タスカジを選ばれた理由を教えてください（複数回答可）



（女性n=276、男性n=19）

Q.タスカジの家事代行の実施時間中、あなたは何をしていることが多いですか？（複数回答可）



（女性n=276、男性n=19）

女性は男性と比べ「子どもとの時間を過ごしている」人が多く、男性は女性に比べ「学びの時間」や「仕事時間」に充てている人が多かった。

Press Release

＜調査概要＞
■調査名：「家庭内（ジェンダー間）の家事ギャップと家事代行利用の実態調査」
■実査時期：2021 年 11 月 7 日（日）～2021 年 11 月 15 日（月）
■調査方法：インターネット調査
■調査対象：タスカジ依頼者ユーザー
■回答者数：351 名（女性：316 名、男性 35 名）
※男性依頼者ユーザーはサンプル数が少ないため参考値

＜本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先＞
株式会社タスカジ　広報担当：門出 万里子（もんで まりこ）
Tel：080-7827-9202　E-mail：pr@taskaji.jp